

ういねっと

Wakayama environmentalists NET work

和歌山県地球温暖化防止活動推進センター



第29号

2012年12月20日

エコキャンドルで ゆっクリスマス



WENETは、12月9日（日）和歌山ビッグ愛（和歌山市）で、親子で作るエコキャンドル・イベントを開催しました。



初雪の降る中、3組10名の親子が参加し、エコキャンドルとミニツリーづくりを楽しみました。

まずはエネルギーの話から。枯渇する化石燃料に頼る今の暮らし。大量発生するCO₂が地球温暖化を加速させている状況、それによって起こる気象の変化、失われていく自然など、環境への影響について学びました。子どもたちには少し難しかったかもしれませんが、大人たちは「新聞やテレビで耳にする言葉をあらためて理解することができ、子どもと考えるきっかけになった。」と喜んでいました。

そしてエコキャンドルづくり。今回はフタ付きの空きビンを使用しました。まずは、鍋に廃食用油を入れて約80度まで熱し、その中に食油用の凝固剤を入れてよくかき混ぜます。そして、それを色づけするために、アルミカップにおたま半分くらいを取り分け、好きな色のクレヨンスティックのように挿してかき回すと、どんどん色がついてきます。

色がついたら香り付けのアロマオイルを数滴垂らし、そして、キャンドルにする空きビンへ流し込みます。熱いので気をつけながら、水を張ったトレイで冷やします。これを繰り返していくと、ストライプ柄のキャンドルができあがります。



固まっていくまでの間「次は何色にしようかな」と子どもも大人もワクワクしながら、色を選んでいきます。男の子は青系の爽やかな彩り、女の子はキャンディのようなカラフルな色合いに。素敵なキャンドルができあがりました。

次に、ミニツリーづくりも行いました。大人のこぶし大の松ぼっくりを、木の台座にボンドで固定。そこへ南天の実やリボンなどを飾りつけていきます。参加した小学2年の男の子は、大胆に枝ごと南天を使って立派なツリーに。お母さんから「これなら正月にも使えそう」と喜ばれていました。

最後に、夏至と冬至の夜8時から2時間、家の明かりを消すイベント「100万人のエコキャンドル」について説明、今回作ったキャンドルで参加してもらえるよう訴えました。

参加したお父さんは「こういう機会を通じて、家族とともにエネルギーと環境への意識を高めていきたい」と話していました。



バイオ発電&バイオコークスの検討開始 和歌山バイオマス利用促進協議会が発足

和歌山県は、森林資源が豊富で林業・林産業が盛んな地域ですが、木材需要の減少や価格低迷、就業者の高齢化の進行、さらにナラ枯れ被害の拡大等の課題が深刻化しています。また、森林・林業の停滞は、製材加工等の地場産業の活力低下や、台風などによる林地残材の大量流出等大災害の遠因にもなるなど、地域の社会・経済に重大な悪影響を及ぼしています。

こうした中、地域社会の基盤を成す森林を、いかに持続的に保全しかつその恵みを社会に還元するか、新しい仕組みをつくるための推進母体として、11月28日、「和歌山バイオマス利用促進協議会」が総会を開き、発足しました。

総会では、地球温暖化や資源・エネルギー問題において、森林資源への注目が日に日に高まっており、特に、再生可能エネルギー固定価格買取制度が始まったことを受け、エネルギービジネスの観点からも注視され、和歌山県の豊富な森林資源と伝統的な林業・林産業の基盤を活かして森林資源の利用を事業化する大きなチャンスが訪れている等とした「設立趣意書」と規約を確認。会長に南海スチール㈱の中野氏、副会長に㈱石橋の石橋氏、丸紀木材工業株の山田氏、県森連の谷関氏を選出しました。



当面のとりくみとして、協議会では、県中部の日高・有田川・西牟婁地域において、再生可能エネルギー事業（＝バイオマス発電・バイオコークス複合システム）を成立させるため、①原料の安定供給システム、②安定的なエネルギー転換システム、③需給・価格の面で安定したエネルギー利用システムを各々確立するための調査・検討の事業を行うことになり、具体的には㈱石橋・次世代エネルギー研究所・わかやま環境ネットワークが共同提案し採択された環境省の委託事業「地域調和型エネルギーシステム構築検討委託業務」を実施することになりました。

どうなる日本の地球温暖化対策

12月16日に投開票された第46回衆院選挙の結果、自公連立政権の復活が確実になった。

一方、この選挙の直前、中東カタールの首都ドーハで開かれていたCOP18（国連気候変動枠組条約第18回締約国会議）は、最大の懸案、今年末で第1約束期間が終了する京都議定書の取り扱いについて、2020年までに先進国が1990年比18%を削減する目標を掲げ来年1月1日から切れ目なく第2約束期間に入ること合意、懸念された実効性ある温暖化対策での空白はギリギリのところ回避された。

これは粘り強い交渉で得られた貴重な成果だ。だが、この合意された削減目標を8年がかりで達成しても、今の世界のCO2排出量を実は1%程度しか減らせない。

最大のCO2排出国である中国（世界の排出量の24%を占める）と3位のインド（5.6%）は途上国で京都議定書による削減義務を負わず、2位米国（18.1%）は京都議定書から逃亡。さらに4位ロシア（5.1%）と5位日本（3.7%）が第2約束期間の削減目標を拒否したためだ。ちなみに目標を受け入れた国々のうち最大のド

イツのCO2排出量は5位日本の3分の2に過ぎない。

ドイツを初めとするEUなどの削減努力はもちろん高く評価すべしだが、世界の排出量は毎年、前年比で3%ずつ増え続けている。世界の排出量の6割近くを占めるワースト5を野放しにしている限り、第2約束期間の貴重な合意も焼け石に水と評するほかない現実なのだ。このまま推移すれば、破局的な地球温暖化は避けられないだろう。

京都議定書の母国であり世界最高水準の環境技術を有する日本こそが、第2約束期間に復帰のうえ率先して野心的な削減目標を掲げ、他の4排出大国に働きかけるべきだと確信するが、復活した自公政権はその役割を果たせるだろうか。かねてより温暖化対策を敵視してきた経済団体からの強い圧力が懸念されるところだ。

折しも来年には、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第5次評価報告が逐次発表される。こうした地球温暖化の科学に立脚した市民の声を、地域の人々に、そして国と地方の政策決定者に、一層強く届けねばならないと思う。（重栖 隆）



クローズアップ わたしたちの活動 (22)

このコーナーはわかやま環境ネットワークに参加する団体や企業、個人の活動記録と今後の展望を紹介します。

今回は印南町で活躍する一般社団法人ビオトープさんを紹介いたします。

一般社団法人ビオトープ

【団体経緯】

平成11年4月1日 任意団体「切目川エコクラブ」設立
 運営母体はビオトープ部とイベント部の運営
 平成12年1月6日 切目川の自然保全を願って『ビオトープ切目川』のホームページを開設プログラムの提供を開始。
 平成23年4月20日 一般社団法人ビオトープを設立

自然や人の営みを、はぐくんできた里山を再生するために「ビオトープ」を創ることと人が集まることにより地域に利益と雇用を生みだし、ビオトープで里山保全を目的に設立された一般社団法人です。

ビオトープ（生物生息空間）を創るだけでは、里山を再生することは出来ないと考えています。里山と生き物の営みを持続して行くことが必要です。そのためには生物の多様性が必要です。ビオトープはその前身である切目川エコクラブの平成11年から既に12年間の活動と実績を受け継いだ、法的な権利を持ち、義務を負うために法人格を取得するにいたりました。一般社団法人として、新たに里山をビオトープとして生き物の共生の『場』と『機会』を創る活動を続けます。

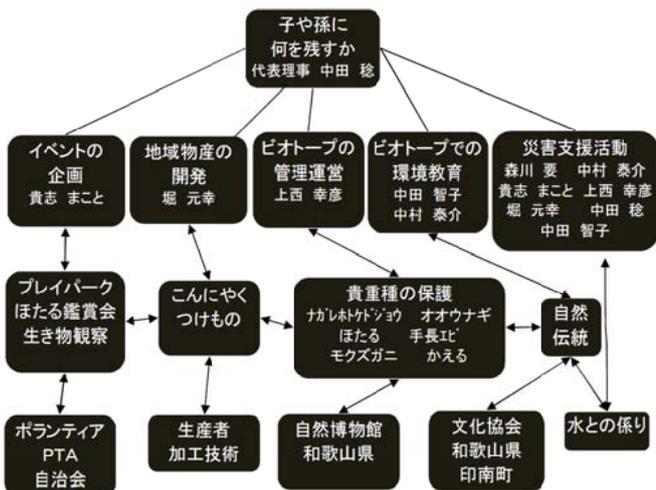
今、特に牛乳パックのリサイクル、どんぐりの苗木づくりの活動を行っています。

昔は生きものがたくさんいて楽しかった、未来の子供たちにも、この状況を継続されることを願って活動を続けています。（代表理事 中田 稔）



アイガモ農法で田植え

一般社団法人ビオトープ組織図



一般社団法人ビオトープ

【所在地】

〒649-1522

和歌山県白高郡印南町大字古井391番地の1

【連絡先】

電話 0738-45-0834

E-mail info@biotope.or.jp

http://biotope.or.jp/

【理事】

中田 稔（代表） 中村 泰介 貴志 まこと

森川 要 堀元 幸

【監事】上西 幸彦

INFORMATION

市民がすすめる木質バイオマス活用事業 薪づくり交流会・ワークショップのお知らせ

「わかやまエネルギー自立化促進コンソーシアム」は、薪づくり・活用を通して温暖化対策と地域活性化をめざしています。以下の日程で、薪を提供する人と薪を使う人との交流会を行い、未利用木質バイオマスの利活用について考えます。関心のある方、ぜひご参加ください。

■2013年1月20日（日）10:00～
田辺市上秋津会場

■2013年1月27日（日）10:00～
橋本市隅田町会場

※詳しくはNPOわかやま環境ネットワークへ
電話：073-499-4734

☆☆☆産消提携倶楽部ふうど☆☆☆

有機農産物を作る人（生産者）と求める人（消費者）を繋ぐグループです。今年も開催します！年末年始にも有機野菜・果物をぜひどうぞ♪

【歳末市のお知らせ】

★日時：12月26日（水）10:00-12:00

場所：「柿右エ門北店」様駐車場（橋本市さつき台）

★日時：12月28日（金）14:00-16:00

場所：「Cafe ざっか屋 あわたま」様前
（和歌山市毛見）

【年始初売りの予定】

★日時：2013年1月8日（火）11:30～12:30

場所：「芦原診療所」様駐車場（和歌山市雄松町）

★日時：2013年1月9日（水）10:00～12:00

場所：「柿右エ門北店」様駐車場

★日時：2013年1月11日（金）16:00～17:00

場所：「Cafe ざっか屋 あわたま」様前

◎いづれも売り切れ御免。マイバッグ持参にご協力下さい。

《連絡先》 TEL：073-499-4736

e-mail：teikeifuudo@gmail.com

もう対策はお済でしょうか？！

来年4月から電気料金が値上げになるようですね。およそ8～10%強になるとの事です。私たちは、今後一層の節約を求められそうです。

今の暮らしを具体的に見なおす“みちしるべ”となるのが、うちエコ診断です。

この診断の最大のポイントは「楽しみながら知ること」。意外と気が付かなかったことが見えてきます。

どうぞお早めにお申込ください。

申込の〆切りは2013年1月末です。

うちエコ診断で賢く節約を！

【申込先】NPOわかやま環境ネットワーク 担当：臼井

環境省セミナー

「省エネ・温暖化対策を通じた経営力向上のすすめ～中小企業のためのCO2排出量算定の新しい視点～」

日時：平成25年1月17日（木）14:00～

場所：淀屋橋三井ビルディング6F

（有限責任監査法人トーマツ大阪事務所セミナールーム）

環境省が開催する本セミナーでは、企業における温室効果ガス排出量の把握や省エネ・温暖化対策を経営力向上に役立てていただくことを目的とし、中小企業の省エネ推進・環境・CSR担当者等に対し、企業による先進事例発表に加えて、『中小企業温暖化対策推進ガイドライン』及び算定ツールと事業者向け補助事業等を紹介する内容となっています。

●本件の詳細については、下記報道発表をご覧ください。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=16102>

事務局だより

2012年も残すところあとわずかとなりました。会員みなさま、今年も一年大変ご苦労さまでした。8月に前号を発行して早くも4ヶ月が経過してしまいました。3ヶ月に1本は出したいと考えてきたのですが、事務局体制がまだ確立できず、何かとみなさまにはご不便をおかけしております。非専従の事務局員を募集していますので、ぜひお力をお貸しください。

【年末年始の事務局閉鎖について】

年末は、28日（金）の午前中まで業務をおこないません。年始につきましては、1月7日（月）から通常の業務を開始いたします。ご理解とご協力をよろしくお願い致します。そして、来年もよろしくお願ひ致します。

年末年始事務所閉鎖期間

12月28日（金）午後～1月6日（日）



ういねっと（わかやま環境ネットワーク通信） 第28号（2012年12月20日発行）

発行：NPOわかやま環境ネットワーク 代表理事 重栖 隆

〒641-0014 和歌山市毛見996-2 電話 073(499)4734 FAX 073(499)4735

mail: wenet@vaw.ne.jp

http://wenet.info/